

Copa 4 1-マール (G)

(B)

どんなにわづかなことでも

G En G En

En D C D G B₂
どんなに小さな"川"でも 最後は海に^Gつながる

En P C P D₂ En
つながる海と海は 海峡を^{D₂}行き来している

En D En

En D G D₂
流されるのでなく 流^Dれに^G乗ることだ

En D G
世の中の動きに 逆^Dらう^Gことはできない

C G
深海泳ぎのカメのように

D G
深いところに その身^Gをかきし

C G
流れるような固い^G甲羅で

D D₂ En
怯むことなく^{D₂}手足を^{En}動かす

1-マール

どんなにわづかなことでも 抵抗^{En}感じたことには

流水を^{En}素直に受けとめること ちと大きな刀が働いている

巻^{En}き込まれるのでなく 波に乗ってゆくことだ

たとえ遠回りでも 目標^{En}変えればいい

大きな海に生かされている

自分の位置を^{En}確かに感じて

振り回される事態を^{En}避けて

心を^{En}乱すことない方に

Capo. 4. 1-マシ (A)

(B)

静止画の風景

E_n G E_n G DG 北のハズレの半島 E_n 思いもよらないところに E_nG 南の島国のビーチ E_n 思い出させる E_n 湖E_n イメラルド色 D しても D₂ 人気がない G 静と色 E_n の風景 B₂E_n その水は赤い D 太鼓橋の C 三途と呼ばれる G 川に流れる DG 家族と一緒に E_n 本当に良かったA_n 一人でなければ D 怖さも少なくG 陽のさす湖 E_n 広がる視界にA_n 止まった時間 不思議な感覚

1-マシ

砂浜やけに白くて心の疲れを癒してくれる

葉やかなもの向もない中で回るいくつかの風車

「極楽」と呼ばれる心安まるこの浜に

やってくる人達は 2人真剣な眼差し

でそればかりに訪れる時も

誰かと一緒に来ればいいと

臆病な僕は 広がる視界に

吸い込まれるような不思議な感覚

Capo. 0 1-2IL G

ゆらゆら

^G ^{En}
 * ゆらゆら波に揺られながら
^C ^{A_n} ^D
 大人気な... 浮き輪にすっぽりはまり
^G ^{En}
 投げ出した足の上を撫でてゆく
^C ^{A_n} ^D ^G
 太陽が温めた海面の流れ **

^G ^{En} ^{A_n} ^D
 久しぶりの海にやってきました
^G ^{En} ^C ^D ^G
 まして沖に浮かぶことごとく
^G ^{En} ^{A_n} ^D
 聞こえるのは波打つ音と
^G ^{En} ^C ^D ^G
 たまり響く海鳥の声

^{En} ^C ^D ^{B₇}
 何にもせずに浮かぶだけで
^{En} ^C ^D ^G
 こんなにも気持ちいいものなのか

1-2IL

水中眼鏡越し見る晴れた空
 たなびく雲のツートンカラーで
 口に入った飛沫がゴックン高く
 噴き上げて自分の顔に戻ってくる

自然のゆりかごに揺られながら
 風のカ 動きまかせて
 目の前のフラグを見つめ
 無性にあじみつ食べたくなる

向にも考えず... 流れる時
 こんなにも満たされるものなのか

(*~** 2回くりかえし)

Capo. 3 1-AL (G)

Capo. 1. オープンD

(B^b)

旅びとよ

G G[#] Em C C[#] C^A D~~(林の) G D Em D Am C C[#] D~~G 思いっまで バスに乗って ^{Em} 遠く^{Em}の海C ここ^Cに^Cくると^C計画^Cしていた^Cわ^Cは^Cで^Cなく^DG 晴れた空に^G期待^Gを^G込^Gめ^G思^{Em}い^{Em}立^{Em}てC 今^Cを^C忘れ^C癒^Cし^C求^Cめ^C気^D分^Dを^D変^Dえる^D旅^Gび^Gと^GよG 旅^Gび^Gと^Gな^Gぜ^G旅^{Em}を^{Em}す^{Em}る^{Em}の^{Em}かA^b 答^{A^b}え^{A^b}は^{A^b}言^D葉^Dに^D出^D来^Dた^DいEm 何^{Em}れ^{Em}ど^{Em}も^{Em}一^{Am}つ^{Am}言^{Am}え^{Am}る^{Am}こ^{Am}と^{Am}はD ど^Dこ^Dか^Dに^D自^G分^Gを^G探^Dし^Dて^DるAm⁷ 何^{Am⁷}も^{Am⁷}り^{Am⁷}す^Gせ^Dる^Dこ^Gと^Gで^Gな^GくAm⁷ 何^{Am⁷}の^{Am⁷}り^{Am⁷}も^{Am⁷}答^Gえ^Gを^G探^Dし^Dた^Dい^{Em}の^{Em}か^{Em}も

1-AL オープンD

陽の眩しさ 白く光り 青い海に

遠く 近く 揺らぎながら 散りばめられて

日常の喧騒から すっかり 離れ

目の前 広がる 自然に 身を委ねる 旅びとよ

旅びと なぜ 旅をするのか

誰かが 曖昧としている

なぜなら やりたいことは

理由など あるはずないから

誰にも 気兼ね することもなく

のんびり 気ままに 過ごしたいのかも

最後になりやっとなつたことは

最後になりやっとなつたことは

ちよつとしたボタンのかけ違いで

あの時のすれ違いの言葉から

取り返しがきかなくなっていた

どうせこうなることなら

もっと本音を言えばよかった

どうしてこんなことになったんだろう

同じことを考えていたはずなのに

もしもしたら違う価値観だったと

さみしいけれど諦めるしかない

どうせこうなることなら

無理に合わせることもなかった

時間がたてばまたいつか

連絡できることあるかな

